

編集後記

『外交史料館報』第二十八号では、平成二六年七月一日に外交史料館講堂において開催した鈴木董東京大学名誉教授による講演会「日本とトルコで大使館が開かれるまで―近代外交システムの拡大と日本とトルコの常駐在外公館網の発展―」の記録を掲載しています。本講演では、近代西欧が原動力となって近代外交システムがグローバルに拡大するなかで、トルコと日本間での大使館設置が、それぞれの近代外交システムへの参入およびシステム内での発展過程においてどのような意味をもったのか、文明的視角から論じていただきました。

さらに本号では、黒沢文貴『日本外交文書』編纂委員による論文「日露戦争への道―三国干渉から伊藤の外遊まで―」を掲載しました。本論文では、日露戦争開戦に向かう指導層の決断の背後にどのような認識が潜んでいたのかに焦点をあてながら、日本の対露開戦への道程を、日露関係史の文脈において再考しています。

史料紹介としては、服部龍二編纂委員が「田中首相・スハルト大統領会談録―一九七四年一月一五日」と題して、外交記録「田中総理インドネシア訪問」所収の田中総理・スハルト大統領会談録を紹介しています。また、神山晃令編纂委員は「国際労働機関（ILO）との協力終止関係史料」として、既刊『日本外交文書』には編纂上の都合から再録し得なかった、国際労働機関（ILO）との協力終止に関する北岡寿逸ILO帝国事務局長からの書簡等を取り上げました。そして濱田耕平事務官は、「外交史料館所蔵「外交公文」と明治初期外務省の編纂事業」の中で、外務省が明治初期に編集・収集した記録文書の集積である「外交公文」に注目し、各史料の概要を紹介すると共に、明治期における記録編纂事業の特質についても取り上げています。

このほか、当館で公開している史料の目録情報を集約しその全体像

を紹介した活動報告、平成二六年三月に刊行した『日本外交文書 昭和期Ⅲ第一巻・第二巻』の概要、平成二六年一月四日から二月二三日まで、埼玉県立文書館と当館との共催により埼玉県立文書館展示室にて開催した「地図アラカルト 世界と地域」についての報告、同年五月一三日から九月一二日まで在日トルコ共和国大使館と当館の共催で開催された特別展示「日本とトルコ―国交樹立九〇年―」の解説記事、さらに、平成二六年九月二四日より同二七年五月八日まで開催中の特別展示「マッサン展」の開催の背景や実現に向けての経緯等についての、高橋周平外交史料館長と白石仁章課長補佐によるエッセイなども併せて掲載しています。

そして末筆となりましたが、本号刊行にあたってご協力いただいた各位に厚く御礼申し上げます。

〈掲載論文などの論旨は、執筆者個人の見解であって、外務省の公式見解ではありません。〉

外交史料館報 第二十八号

平成二十六年十二月二十六日

編集発行 外務省外交史料館

東京都港区麻布台一―五―三

電話 〇三―三五八五―四五一一

印刷 東京都大田福祉工場

東京都大田区大森西二―二二―二六